進捗報告書 （実行団体）

事業名:	新型コロナウイルス対応緊急支援助成
資金分配団体:	特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド
実行団体名:	特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター
実施時期:	2020年11月～2021年9月
事業対象地域:	神奈川県
事業対象者:	子ども・若者

Version 1.2

日付： 2021年4月9日

Ⅰ．事業概要

事業概要
コロナ禍、暮らしにくさ、育ちにくさ、未来に夢を持って生きることに困難を感じる子ども・若者、その家族の増加が懸念されます。2020年６月「子ども・若者の育ちと自立を支える活動調査報告書」を県内134の活動団体の回答により、身近で伴走的な支援の価値を明らかにしましたが、感染症拡大により、こうした支援団体にも、活動困難が生じています。本事業は、改めて、子ども・若者・家族に今起きている課題を明確にし、こうした非常時においても、その課題に寄り添い、改善する支援のあり方を実際の活動団体やその団体を支える専門機関（専門職）と共に可視化し、活動の更なる普及・活性化のため冊子やWEB記事によって情報発信します。

Ⅱ．進捗報告の概要

総括
今回の事例集は、地域で居場所などを行っている団体が、子ども・若者の抱える課題をどのように発見し捉え、どのように伴走支援しているかを、個別の事例を通して可視化していく予定である。その切り口を探るための活動者懇談会では、予想以上に課題が複雑化し多問題化していることが明らかとなった。さらに現在の社会、制度、家族のあり方等様々な視点から考える必要があることがわかり、事例集の構成をどのようにするかなどにかなりの時間を費やすこととなった。また、緊急事態宣言の影響でヒアリングが延期になったこともあり、多少遅れがあるが、5~6月には多くの団体へのヒアリングを終え、9月には完成できる予定である。

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	**進捗状況**
地域のみんなが元気になる活動事例集 ～コロナ禍、地域で守る、子ども・若者の育ちと自立～ ◎500部を市民活動団体、市町村行政・社協・子ども関係機関に配布	12月の活動者懇談会で各団体から聞き取った子どもの個別課題やその背景を、事務局として整理し、事例集としてまとめるためのカテゴリ分けを検討。単に「不登校」「発達障害」などでは分けられない、それぞれの子どもの状況や環境、背景には個別のまた多様な要因があり、どのように表していくのか、かなり時間を費やし検討した。3月には3団体へのヒアリングを実施、それぞれの支援者が子ども、若者に寄り添い、また家族への支援も行いつつ伴走支援していることが明らかとなった。単なる活動紹介でなく、今の子どもたちのおかれている厳しい状況やそれを支援する地域の活動を可視化し、コロナ禍の今だからこそ、地域で支えていくことの必要性をどのように表すか今後の限られた時間の中で、より多くの団体へのヒアリングを通して考えていきたい。

活動	**進捗状況**	**概要**
12月　活動者懇談会（コアメンバー会議）開催 1月　ヒアリング団体選定 3月　ヒアリング開始（3団体）	ほぼ計画通り	11月　事務局による企画会議と活動団体の洗い出し作業 12月　第1回活動者懇談会（7団体の活動者に集まってもらい活動の中で見える子ども・若者の個別課題や事例について報告、共有。 1月~2月　事務局にて企画の再検討及びヒアリング団体の選定 3月　3団体への訪問、ヒアリング

Ⅳ. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
（団体として、事業実施後（1年以降）に目標とする状態への指標等を設定している場合、ご記載下さい） 本事業を通して、構築したネットワークを活用し、今年度中に、活動団体への啓発やネットワーク構築を目的とするフォーラムを開催する予定。活動団体やその活動者がどのように子ども・若者の課題に対して伴走支援している事例やその意義を共有できる機会としたい。

Ⅴ．インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥1,000,400	¥1,942,081	¥2,942,481	¥650,778	22%
	管理的経費	¥227,269	¥273,923	¥501,192	¥192,917	38%
合計		¥1,227,669	¥2,216,004	¥3,443,673	¥843,695	24%

補足説明	緊急事態宣言の影響があり、職員の出勤日数を抑えたこと、また、2回予定していた活動者懇談会（コアメンバー会議）が1回しか実施できなかったことと、事例集のまとめ方の検討に時間がかかり、スーパーバイザーとの相談が遅れているため、人件費、謝金が予算通りに執行できていない。

Ⅵ. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
コロナウイルスの感染の終息が見通せない中、対面での会議にはリスクがあるが、やはり活動者が集まり顔を合わせて検討することの意義も大きく、コアメンバー会議は回数を減らし、対面で行なう予定である。また、活動団体へのヒアリングに関しては、計画では８団体と考えていたが、より多くの事例を集めるため10～15団体程度にヒアリングを行う予定。また、できれば活動現場の様子も見学しつつ行うことを考えているため、今後また、緊急事態宣言などが発令されると計画通りに進まないことも懸念される。場合によってはオンラインでのヒアリングも行いつつ、できる限り多くの団体へのヒアリングを実施していきたい。

Ⅶ. その他

自由記述

Ⅷ. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	

Ⅸ. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	